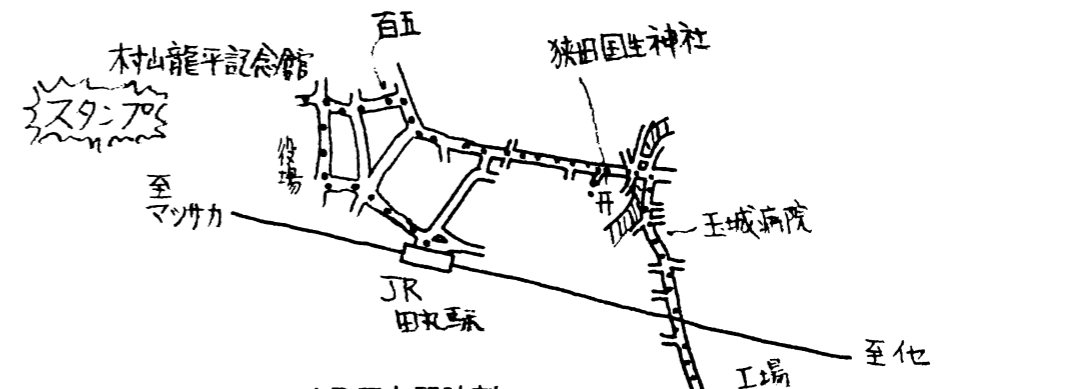


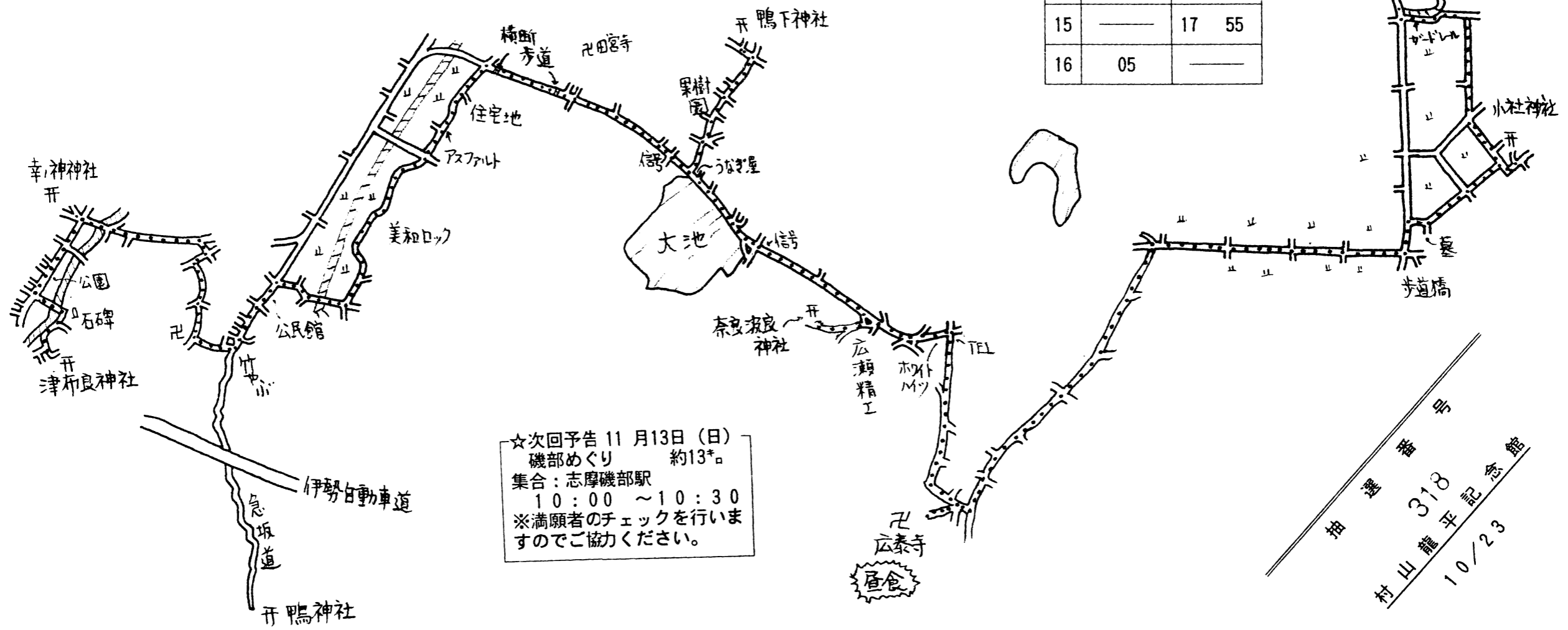
平成6年 お伊勢さん125社めぐり
10月 甲鳥めぐり 参拝 6社

伊勢市駅=バス=幸ノ神神社
田宮寺 奈良波良神社
国生神社 村山龍平記念館 (スタンプ)
鴨神社 (道路崩壊のため遙拝)
広泰寺 小社神社 狭田
(昼食)
JR田丸駅 (約12キロ)



JR田丸駅時刻

	松阪方面	伊勢方面
13	30	06 57
14	16 52	52
15	—	17 55
16	05	—



☆次回予告 11月13日(日)
磯部めぐり 約13km
集合: 志摩磯部駅
10:00 ~ 10:30
※満願者のチェックを行いますのでご協力ください。

抽選番号
318
村山龍平記念館
10/23

くからツムロ、ツブラと呼ばれてきたものである。

祭神は大水神の子であることから、積良の田野の水の神として尊ばれてきたことがわかる。

この社も、中世社地を失うが、明治六年、村民の請により積良の産土神八柱神社の中に再建した。この地は荒木田氏祖先の墳墓の地であるため、昔は荒木田氏に人々により祖先の氏神祭りが行なわれた。

神社の境内は苔なめらか、文化十二年の在銘の水盤がある。静けさの中に荒木田氏の昔がしのばれる。

八柱神社は明治四十一年、外城田神社に合祀されている。

殿舎

正殿	神明造板葺南面	壹宇
玉垣御門	猿頭門扉付	壹間
玉垣	板打連子	壹重
鳥居	神明造	壹基

○鴨神社（皇大神宮摂社） 祭神 石己呂和居命 御前神

昔は造宮使造替六社の一つで、両正宮の遷宮と同時に遷宮の行なわれる格式の高い摂社であった。

延喜式神名帳には鴨神社とあるが、儀式帳や大神宮式、斎宮式には、ただ鴨社とのみ記されている。

鴨というのは、この山神の地名で、「大神宮諸雑記」に「度会郡城田郷石鴨村」とあるのはこの地のことである。

儀式帳には「来田郷山上村にあり」とみえている。山上とは大日山の麓の意味である。そしてその四至は、東、南、西は山、北は公田とあることから、現在の山中ではなく、もう少し麓にあったものと思われる。

祭神の石己呂和居命は、大水上神の子といわれるところから、農耕灌漑の守護神であったことが想像される。

現在の社殿の東上、100mほどのところに岩窟があり清水が湧出して

鴨比売命

田宮寺の東隣、大字勝田にある、山神の鴨神社からみると、山裾の方であることから鴨下神社という。

祭神は大水上神の子で、勝田の田野の水利灌漑を司さどる守護の神である。

「類聚神祇本源所引」の社記に、「鴨社城田郷山上村にあり、前社同郷狩田村に在り」としている。つまり、皇大神宮摂社鴨神社の前社である。

山上は今の玉城町山神、狩田は今の同町勝田である。その距離は約4km 神宮摂社の前社でこのように遠隔に祭られ、また本社と別の社号をつけられた例はない。鴨下神社は摂社の鴨神社と区別するためにつけられた社号で、鴨神社の前社ではないという説もある。

殿舎

正殿	神明造板葺南面	壹宇
玉垣御門	猿頭門扉付	壹間
玉垣	連子板打	壹重
鳥居	神明造	壹基

○奈良波良神社（皇大神宮摂社） 祭神 那良原比女命

延喜式神名帳には奈良波良神社とあるが、同大神宮式や斎宮式にはただ奈良波良社と見え、儀式帳には榊の字を当て榊原神社と書いてある。榊原の名から、この一帯が榊の木の原野であったことが推測できる。

祭神是那良原比女命、儀式帳によれば、大水上命の子であると伝えている。榊原の地域の田野灌漑の御田の守護神である。

この社も戦国争乱の余波を受け頽廃、寛文三年再興された。神社の入口に紀州藩の建てた、「禁殺生」「享保甲辰」の石の標柱がある。ここ宮古の地は、「外宮神領目録」に「宮古御園」とあり、古くから外宮の神領地となっていたところである。

殿舎

正殿	神明造板葺南面	壹宇
----	---------	----

玉垣御門	猿頭門扉付	壹間
玉垣	連子板打	壹重
鳥居	神明造	壹基

○広泰寺

一休宗純と並ぶ名僧といわれた玄虎禅師によって文明十八年(1486)年に開かれた曹洞宗中本山であった。

元禄十四年(1701)には伊勢の紀州領18万石の触頭僧録司を命じられ、度々の火災にも紀州藩の援助で再建された。

和宮降嫁のとき御衣料絵師となった南島町出身の野村訥齋が当寺で描いたという「虎の図」など数点が秘蔵されている。

ここから北へ700mほど行くと、お頭神事の際禊をする場として使用されている宮古の石風呂がある。この石風呂は焚き口から薪を焚いて石造の釜を焼き、釜の上にわたした青竹でつくった簀子の上にひろげられたぬれむしろの上から、近くの池の水をかけて蒸気をたちのぼらせ、発汗させて身を清める蒸し風呂の一種である。

○小社神社(皇大神宮末社) 祭神 高水上命

神社の入口に、天保三年三郷若連中から奉納の水磐がある。

皇大神宮延暦儀式帳にその名がある。垂仁天皇の御代、倭姫命の時、祝い定められた。一千年以上の昔から、この地の産土神として鎮座していた神である。

儀式帳に大水上神の子と申し伝えている。南の大日山の谷間から発する水が下外城田を貫流して宮川に注いでいるが、この川が小社の田野の灌漑用水に供されているので、この川の水の御陰を尊び高水上命と申し上げたものである。

この神社は皇大神宮の神主、荒木田氏がこの地方を開拓した当時、産土神として尊んだ神で、荒木田氏は後に宇治に移り住むが、後々までこれを氏神の一つとして尊び、建久年中行事によると、毎年四月の初の申の日には荒木田神主が一族を引き連れて本社に参拝したことが見えている。

玉垣御門	猿頭門扉付	壹間
玉垣	連子板打	壹重
鳥居	神明造	壹基

○田丸城

南北朝時代の延元元年（1336）、伊勢に下向した北畠親房が、参宮街道と熊野街道の分岐する要衝の地、玉丸山に築いた城である。興国三年（1342）年、北朝方の仁木義長・高師秋により落城するが、両朝合一後は北畠氏の支城となる。

天正三年（1575）、北畠の養子、織田信雄が修築するが、同八年焼失、その後稲葉道通が大修築し、元和元年（1615）の大坂の役以後、藤堂高虎の領有となった。

標高50mの丘に築かれた平山城で、外城田川の流れを変えて城下町を取り囲む外堀とする。現在、城山公園として整備され、田丸中学校、玉城町役場、田丸小学校などが建っている。

○田丸城奥書院

この奥書院は、延宝五年（1677）に城主久野氏三代宗俊公が場内三の丸に建てた御殿の一部といわれ、明治維新後、明和町竹川の副田氏宅へ払い下げられていたもので、このたび120年ぶりに城郭内に里帰りが実現したものである。

建物は、瓦葺平家建てで、農家として一部改造されていたが、城主の寝室として使われた書院付上段之間（八帖）、居間として使われた御次之間（十帖）など江戸初期の様式をそのまま残している。

※参考

「伊勢志摩を歩く」「神宮摂社末社巡拝」「玉城町広報」

「三重県の歴史散歩」「ふるさとの散歩道」「玉城町史」ほか